

# George Balanchine (1904-1983) 研究 —スタッカート・スタイルを中心に—

山田 奈緒

## [研究目的]

バランシン (George Balanchine, 1904-1983) は、舞踊における物語的 (narrative) な要素を抑え、音楽に合わせた身体の動きの美しさを追求した振付家である。そこで本研究では、この振付スタイルを解く鍵として、古典的なクラシック・バレエの技法から動きの滑らかさを排し、振付の一つ一つを際立たせたスタッカート・スタイル<sup>[1]</sup>の視点から考察することを目的とする。

## [研究結果及び考察]

### 1 スタイル形成の理念

バランシンは、プティパ (Marius Petipa, 1818-1910) が確立したクラシック・バレエの形式を尊重する新古典主義の立場をとった。また、舞踊における物語的要素を抑え、身体の動きそのものに重点を置いたことは、モダニズムにおけるジャンル固有の媒体の純化の傾向に通ずる。さらに1933年、当時バレエの伝統が欠如していたアメリカに渡ることにより、ロシア流の動きの滑らかさを排除し、動きの間のつながりを断つスタッカート・スタイルを適用しながら、作品の抽象性を高めていったと考えられる。

### 2 スタッカート・スタイルの特質

スタッカート・スタイルは、振付の一つ一つを際立たせ、身体の動きを、バレエのポジションの連続として観客に記憶させることにより、舞踊における物語的要素や個人的感情を抑え、身体に動きそのものの美しさを見せるものである。これは、カメラのフィルムのコマのように硬化したポーズの連続や、テンポの速い音楽に合わせた密度の高い振付に表れている。またバランシンは、手先、脚先といった身体の細部にアクセントをつけて装飾的に用いることにより、身体全体の調和よりも、身体の各部分の関係を強調し、動きの純粋性を高めていった。この手法により、クラシック・バレエのステップそのものが浮き彫りになり、そこに内包された理想の男女像が純粋な形で表れていると思われる。

### 3 音楽との関係・映像分析

ストラヴィンスキー (Igor Stravinsky, 1882-1971) の音楽は、音と音との間を遮断することにより、音素材の静的な堆積から成る形式によって構成される。バランシンは彼の音楽の持つ韻律的リズム (metric rhythm) に従って、動きのつなが

りを遮断しながら振付を行った。またバランシンは、視覚と聴覚の違いについて、人間は目で身体の素早い動きを捉えるよりも、耳で音楽のメロディーやリズムの細部を聴き取る能力の方が勝っていると考えていた、そこで、音楽に合わせて同じ振付を反復して印象づける手法を用いたのである。

スタッカート・スタイルと音楽の関係を調べるにあたり、サーマル・アレイ・レコーダー<sup>[2]</sup>等を用いて分析を行った、その結果、〈アポロ〉 (Apollon musagète, 1928) においては、振付は、音楽のタイミングに合わせた部分がほとんどであったのに対し、〈アゴン〉 (Agon, 1957) では、舞踊は音楽のリズムを予想したり、また残響としてリズムを刻み、さらに音楽の拍から離れて独自のリズムを持つようになっている、このことから、舞踊は音楽と緊密に関係しながらも一線を画し、踊りそのものを見せる傾向に発展したと考えられる。

## [結論]

バランシンのスタッカート・スタイルは、ロシアとアメリカ、古典バレエとモダニズムという、相反する要素を結びつける鍵となっている、つまり、ロシアの舞踊における物語性を重視する傾向の中から、クラシック・バレエの技法を抽出し、その形式を強調することにより、抽象性の高い作品を形成していったのである。

また彼の振付は、物語や衣装・装置による情報が少ないことから、観る側の積極的な参加が求められる。そのためスタッカート・スタイルは、音楽のリズムに合わせて動きのつながりを遮断することにより、観客に身体の動きそのものを記憶させる記号としての役割を果たしていると考えられる。

## [註]

1 スタッカート・スタイルという言葉は、Makarova, Natalia. 1980. *A Dance Autobiography by Natalia Makarova*, London: Adam and Charles Black から引用した。

2 サーマル・アレイ・レコーダー (RTA-1100M: 日本光電) は、高い周波数性を持つ記録器、VTRと接続することにより、音楽の時間軸に対して、その時に起こった出来事を音量と同時に記録できる。

## [主要先行研究及び文献]

- ・ Jordan, Stephanie. 1993. "Agon: A Musical/Choreographic Analysis" *Dance Research Journal* (Fall), New York. pp 1-12.
- ・ Macaulay, Alastair. 1986. "The Ambiguities of Serenade (1934)" *Choreography Principles & Practice*, England. pp186-205.
- ・ Scholl, Tim. 1994. *From Petipa to Balanchine*, New York: Routledge.